

**痴呆性高齢者への環境支援指針(PEAP)を用いた
施設環境づくり実践ハンドブック**

平成 16 年(2004)3 月

主任研究者

児玉桂子 日本社会事業大学教授

目 次

目的と進め方

—施設環境づくりは、何を指し、どう進めるのか—

1. 施設環境づくりの目的 / 2
2. 施設環境づくりの進め方 / 3
3. 本書の使い方 / 3

STEP1

—痴呆ケアと環境への理解を深める—

1. 施設環境の課題と方向性 / 4
2. 痴呆性高齢者への環境支援の基本的考え方 / 4
3. 痴呆性高齢者への環境支援指針 (PEAP日本版3) / 5

STEP2

—環境課題を抽出する—

4. キャプション評価法の実施 / 8
5. キャプション評価法による課題の抽出 / 10

STEP3

—環境改善計画を考える—

6. 取り組みチームづくり / 12
7. チームで課題を整理する / 12
8. 環境改善計画の作成 / 13

STEP4

—実施計画を実施する—

9. 実施計画の作成と実施 / 14

STEP5

—改善した環境を使いこなす—

10. ケアプラン・生活プランに取り入れる / 15
11. 改善した環境の維持・見直し / 15

STEP6

—環境づくりの効果を確かめる—

12. 環境作りを記録する / 16
13. 評価の方法 / 16
14. 取り組みの評価 / 16

【参考資料】 取り組みのプロセスの評価 / 17 痴呆性高齢者施設環境配慮尺度 / 18
個別配慮チェックリスト / 19 チェックリストのまとめ方 / 20
キャプションカード書式 / 21 環境づくり事前事後シート / 22

目的と進め方

—施設環境づくりは、何を指し、どう進めるのか—

1 施設環境づくりの目的

◇◆環境改善から生活やケアの質の向上へ◆◇

痴呆ケアにおいて、環境整備の重要性が注目されてきています。しかし、痴呆ケアに環境整備が重要であることはわかっているにもかかわらず、施設で働く一人ひとりのケアワーカーにとっては、施設的环境を変えることは容易ではなく、「与えられた環境の中でケアをするしかない」と考えてしまいがちです。

一方、近年、全室個室やユニット型といった施設も増え始め、施設においても小規模かつ家庭的な環境を活かした個別的なケアへの取り組みが拡大し、ケアの質につながる施設の環境整備を、建築計画の段階から視野に入れて整備された施設も増えてきました。

そのような動きに触発されて、既存の施設でも改善への機運は高く、環境改善をして、その環境を活かした個別的ケアの実現を図る考え方が次第に広まりつつあります。

こうして、痴呆ケアにおいて、生活やケアの向上には、環境整備が不可欠であることが、多くのケアワーカーに意識されるようになってきました。

そこで、本書は施設のケアワーカーに「あなたの施設で、あなたが（あなたたちが）取り組める環境整備」を、「実践的に」紹介するために企画されました。

ケアワーカーがよいケアを目指すために、環境づくりに取り組む…すなわち、施設環境づくりの目的は、「よいケアの実現」です。

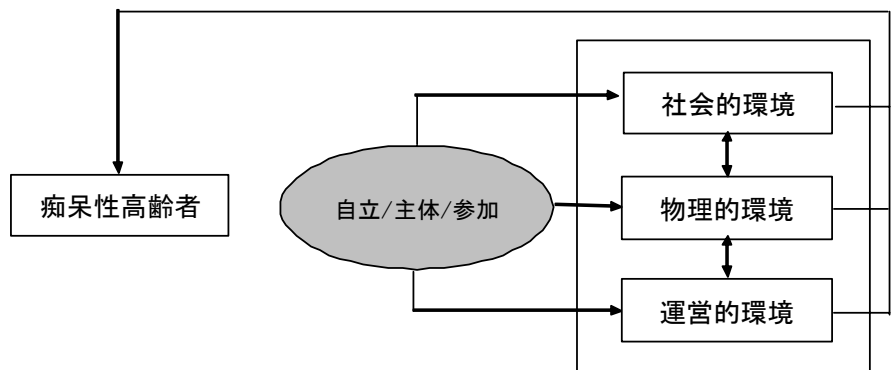
施設環境づくりは、大工事によって行うものばかりではありません。大工事を伴わないレベルで、施設のケアスタッフが取り組める環境改善が多数あります。本書はそのような取り組みを実践できるよう、学ぶ教材として制作したものです。

この本を片手に、あなたも、あなたの施設で、できることから取り組んでみましょう！

◇◆環境を総合的にとらえよう◆◇

施設環境は、建築や設備などの「**物理的環境**」、スタッフの関わり方などの「**社会的環境**」、施設のケア方針などの「**運営的環境**」から構成されています。これらを総合的な環境としてとらえて、一貫性のある環境づくりを行うことが、入居者の生活の質を向上させるうえで大切です。

環境を総合的にとらえる…多様な痴呆性高齢者と多面的な環境の相互作用への理解



◆◆ケアスタッフの環境への意識の向上◆◆

環境づくりを実施して快適な環境が実現すればゴールというわけではなく、個々の高齢者に合わせた調整や、ケアに取り入れていく試みが継続的に行われることが大切です。

ケアスタッフ自身が環境づくりに取り組む中で、ケアスタッフの環境への意識が向上し、整備した環境を活かしたよりよいケアができるようになり、ケアの質の向上につながります。

2 施設環境づくりの進め方

ケアスタッフが施設の環境づくりに取り組む際には、右の図に示す6つのステップに沿って進めていくとよいでしょう。

業務の中で取り組むことを考えると、年間計画や月間計画の中に、各ステップを位置づけ、施設全体や取り組むチームのメンバーで「現在どのステップまで進んだか」を共有しながら計画的に進めることも、有効な方法でしょう。

3 本書の使い方

この本は、施設でケアスタッフが環境づくりに取り組む際のリーダーのための研修会でテキストとして使用することができます。

また、研修で学んだことを施設に持ち帰り、他のケアスタッフや取り組みチームのメンバーとともに実践に移す際に、本書の6つのステップを参照しながら

現場で取り組むことができるように作成してあります。「同じように実践してみる」ためのハンドブックとして活用してください。

巻末には、取り組みにあたって必要となる書式を原寸大で添付しているので、これらをコピーして記入しながら進めることができます。

施設の環境づくりの進め方 -6つのステップ-

STEP1

痴呆ケアと環境の理解を深める

- ・痴呆ケアと環境について学ぶ
- ・痴呆性高齢者への環境支援指針(PEAP日本版3)を学ぶ

STEP2

環境課題を抽出する

- ・キャプション評価法を実施してみる
- ・環境の課題を抽出する

STEP3

環境改善計画を立案する

- ・取り組みのチームづくり
- ・チームごとに課題の整理
- ・環境改善計画を作る

STEP4

環境改善計画を実施する

- ・実施計画を作り、行動する

STEP5

改善した環境を使いこなす

- ・ケアプラン・生活プランに取り入れる
- ・改善した環境の維持・見直し

STEP6

環境づくりの効果を確かめる

- ・取り組みのプロセスを評価する
- ・環境づくりの成果を評価する